

J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S182]

- 15) 武原 格, 安保雅博, 渡邊 修, 一杉正仁 (獨協医科大学), 林泰史 (東京都リハビリテーション病院). アンケートによる脳血管障害患者の交通社会復帰の実態調査. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S187]
- 16) 鈴木 禎, 巷野昌子, 安保雅博. 当院におけるリハビリテーション科一般病床の現状. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S206]
- 17) 殷 祥洙, 田中 平, 安保雅博. 床反力スペクトル解析の妥当性の検討－脳卒中片麻痺患者の歩行について－. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S226]
- 18) 榎岡 剛, 宮村紘平, 百崎 良, 高橋珠緒, 小林一成, 角田 亘, 安保雅博. 新たなSPECT解析法による左半側空間無視症例の局所脳血流評価－症状発現につながる血流低下閾値決定の試み－. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S228]
- 19) 高橋珠緒, 宮村紘平, 榎岡 剛, 百崎 良, 小林一成, 安保雅博. 大脳深部白質病変重症度と退院時FIMとの関連性に関する検討. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S251]
- 20) 船越政範, 鈴木 尚<sup>1)</sup>, 川田英樹<sup>1)</sup> (とちぎリハビリテーションセンター), 安保雅博. 栃木県における重度障害者用意意思伝達装置の交付状況. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会. 静岡, 6月. [Jpn J Rehabil Med 2009 ; 46 (Suppl.) : S281]

#### IV. 著 書

- 1) 安保雅博監修, 橋本圭司, 上久保毅編著. 脳解剖から学べる高次脳機能障害リハビリテーション入門. 東京: 診断と治療社, 2009.
- 2) 後藤杏里, 安保雅博. 第2章: 老年症候群 13. 廃用症候群. 大内尉義, 秋山弘子編集代表, 折茂肇編集顧問. 新老年学. 第3版. 東京: 東京大学出版会, 2010. p.659-66.
- 3) 安保雅博. 15. 神経・筋疾患 脳血管障害による運動麻痺のリハビリテーション. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集. 今日の治療指針: 私はこう治療している. 2010年度版. 東京: 医学書院, 2010. p.773-4.
- 4) 安保雅博, 橋本圭司編著. 知ってるつもりのリハビリテーションの常識非常識. 東京: 三輪書店, 2009.

## 救 急 医 学 講 座

教 授: 小川 武希	救急診療, 脳代謝・頭部外傷
教 授: 小山 勉	救急診療, 外傷・脊椎
准教授: 大槻 穰治	救急診療, 外傷外科, スポーツ救急
講 師: 武田 聡	救急診療, 循環器疾患
講 師: 大谷 圭	救急診療, 消化器疾患
講 師: 行木 太郎	救急診療, 外傷外科
講 師: 奥野 憲司	救急診療, 脳代謝・頭部外傷

### 教育・研究概要

#### I. 救急医学講座の概略

平成17年5月に、本学初の救急医学講座が発足した。平成21年には新たにレジデント3名を迎え、教授2名、准教授1名、講師4名、助教9名、非常勤3名、訪問研究員1名、計20名の編成となった。

本院は、初期治療室7床と14床のオーバーナイトベッド、一般病棟3床、ICU2床を有している。初期救急から神経、循環器を中心とする3次救急の一部までを担っている。また、柏病院では15床の病室を持ち、地域中核病院として3次救急を担っている。本院、柏病院ともに、重症例を含むプライマリケアを中心とする地域のニーズに応える幅広い救急医療を展開している。

また、平成23年度竣工予定の新青戸病院の開設へ向け、7月から、青戸病院救急部へ救急医学講座医師(救急専門医)の1名の派遣を行なっている。

#### II. 教 育

##### (学生教育)

1. 講義: 救急医学講座では4学年講義ユニット:「救急医学」全体を担い、創傷学, 外傷外科学, 神経, 中毒のユニットの一部を担っている。4学年ユニット「救急医学(中毒の治療)」及び3学年ユニット「創傷学」の講義も担当している。

2. 臨床実習: 5年生の救急医学臨床実習期間は2週間である。前半を本院, 後半を柏病院で実施している。日勤, 夜勤をマンツーマン方式で教育を行っている。

3. 選択実習: 6年生の選択実習は1カ月を基本としている。本院, 柏病院でそれぞれ3名ずつ受入れている。

4. 国内・外からの学外学生に対する見学実習を

積極的に受け入れている。

#### 〈初期研修医教育〉

本学の初期研修医は、以前よりスーパーローテート方式を採用していたため、平成16年度からの新初期臨床研修制度の施行後も本質的に指導方式は変わらない。救急部研修は全診療科の全面的なバックアップの元に専属医と研修医のOJT (on the job training) と屋根瓦方式によるマンツーマン方式で行なわれている。臨床実習では、医療情報の伝達能力、トリアージ、心肺脳蘇生法、チーム医療の教授に重点を置いている。また、定期的に症例検討会を開催し、各研修医がより深い理解を得られるよう、専属医が指導を行っている。

#### 〈教職員教育〉

心肺蘇生教育の一環として、4病院CPR教育委員会を設立し、教職員を対照に定期的に慈恵ICLSコース、慈恵BLSコースを主導開催している。また、公的機関へ向けての講義・講習の依頼も増え、これに対応している。

#### 〈医師への啓蒙活動〉

「JATECコース(\*)」開催担当施設として、コースディレクター・コーディネーターを担当し、コース運営に携わっている(\*外傷診療に必要な知識と救急処置を、模擬診療を介して学習するトレーニングコース)。

### Ⅲ. 研 究

#### 〈臨床例に基づく研究発表〉

全国規模の頭部外傷データバンク検討委員会(日本神経外傷学会)の主管幹事を担当しており、全国規模の重症頭部外傷の疫学的調査を継続して行っている。また、全国の治療標準となる「重症頭部外傷治療・管理のガイドライン」(日本神経外傷学会)改定版を平成19年3月に上梓し、この検証作業を進めている。さらに、「低髄液圧作業部会」での検討を進め、低髄液圧症候群の病態について、より一層の理解を深めることにより、診断方法の確立を目指している。

厚労科研究費研究事業である「脳血管障害の診断解析治療統合システムの開発」分担研究者を担当。班会議への出席や学内外での発表に参加している。

自動車技術会会員として、より安全な自動車技術開発について交通事故症例を元に検討する、インパクトバイオメカニクス専門委員会に出席している。

#### 〈救急医療のあり方に関する学際的な研究〉

本院は首都圏の中心に位置するため、救急医療においても地政学的な展開をする運営形態を模索して

いる。大都市災害、スポーツ大会などのマスイベント、航空事故における災害対応への研究を行なっている。

また、日本ボクシングコミッション(JBC)より委託され、後方支援病院として脳神経外科医師とともにコミッションドクターを担当しており、プロボクサーの試合に関わる健康管理を行っている。

#### 〈医療連携における救急医療のあり方に関する検討〉

救急部門は24時間稼働する病院機能の基本的機能と考え、各医療機関との地域連携を図っている。都心部の大規模病院と合同で「救急診療を考える会」を設立している。また「救急」は医師における生涯教育の臨床現場としても有用であると考え医師会を中心に啓発活動を行っている。院内における救急体制(スタットコール体制)の整備を随時行なっている。

8月より開始した「救急の東京ルール」に参加している。

### Ⅳ. 診 療

全診療科の全面的な協力の元に初期救急から3次救急までを担う。柏病院では地域の3次救急医療施設の役割を担い、本院は特定機能病院としての高度なプライマリケアを主体とし、特に消化器、呼吸器、循環器、神経系、感染症の救急医療を中心に展開を試みている。

### 研 究 業 績

#### I. 原著論文

- 1) Taya K, Marmarou CR, Okuno K, Prieto R, Marmarou A. Effect of secondary insults upon aquaporin-4 water channels following experimental cortical contusion in rats. *J Neurotrauma* 2010; 27(1): 229-39.
- 2) 小山照幸(聖マリアンナ医科大学), 笠井督雄, 吉田和彦, 武田 聡, 小川武希. 中学生に対する心肺蘇生法教育. *蘇生* 2010; 29(1): 33-7.
- 3) 徳富孝志(久留米大学), 宮城知也, 小川武希, 小野純一, 坂本哲也, 川又達朗, 重森 稔. 【頭部外傷データバンクプロジェクト2004】早期呼吸循環異常と頭蓋内診断プロジェクト1998との比較. *神経外傷* 2009; 31 (Suppl.): 85-90.
- 4) 卯津羅雅彦(順天堂大学), 奥野憲司, 小川武希. 【頭部外傷データバンクプロジェクト2004】転帰からみた重症頭部外傷の現状頭部外傷データバンクから. *神経外傷* 2009; 31 (Suppl.): 107-12.

5) 小野純一 (千葉県循環器病センター), 坂本哲也, 川又達朗, 徳富孝志, 小川武希, 重森 稔, 山浦 晶, 中村紀夫. 頭部外傷データバンクプロジェクト2004【交通事故で受傷した重症頭部外傷の最近の動向頭部外傷データバンクの検討から. 神経外傷 2009; 31 (Suppl.): 122-30.

## II. 総 説

- 1) Takeda S. Regionalized resuscitation care. ReSS 2009 Report 2010; 4: 7-10.
- 2) 小川武希. 【神経救急】脳外傷の現状 頭部外傷データバンクを中心に. Brain Nerve 2010; 62(1): 13-24.
- 3) 武田 聡, 大槻穰治, 奥野憲司, 潮 真也, 平沼浩一, 小川武希. 【ER からのスタート ER はコラボレーションの場】都内大学病院のER. 救急医療ジャーナル 2010; 18(1): 25-7.

## III. 学会発表

- 1) 武田 聡, 池上敬一 (獨協医科大学), 松本尚浩 (筑波大学), 安心院康彦 (帝京大学). Competency-based training の医学教育への導入. 第41回日本医学教育学会総会. 大阪, 7月.
- 2) 武田 聡, 松本尚浩. 慈恵医大における各種コース開催状況と2010年に向けた課題. 第2回日本医療教授システム総会. 東京, 2月.
- 3) 明石 卓, 今 明秀<sup>1)</sup>, 木川 英<sup>1)</sup>, 軽米寿之<sup>1)</sup>, 高田忠明<sup>1)</sup>, 昆 祐理<sup>1)</sup>, 光銭大祐<sup>1)</sup>, 吉岡勇氣<sup>1)</sup>, 河野慶一<sup>1)</sup>, 千葉 大<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>八戸市立市民病院). 天候不良時におけるドクターカー. 第16回日本航空医療学会総会. 岐阜, 11月.
- 4) 明石 卓, 今 明秀<sup>1)</sup>, 吉岡勇氣<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>八戸市立市民病院). 小児における2輪車ハンドル外傷の2例. 第23回日本外傷学会総会・学術集会. 大阪, 5月.
- 5) Ogawa T. Brain trauma data-bank system in Japan. 2nd International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society. Tokyo, Mar.
- 6) 奥野憲司, 小川武希. 頭部外傷データバンクにおける非交通事故例における飲酒の有無の影響 (プロジェクト1998と2004の比較). 第33回日本脳神経外傷学会. 東京, 3月.
- 7) 権田浩也, 大槻穰治, 明石 卓, 金 紀鍾, 大瀧佑平, 潮 真也, 奥野憲司, 大谷 圭, 武田 聡, 平沼浩一, 小川武希. 悪性症候群を呈した水中毒の1例. 第62回日本救急医学会関東地方会. 東京, 2月.
- 8) Takeda S, Maki N<sup>1)</sup> Kaji M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Japan Airlines), Ota S, Tanigawa S, Ogawa T. Cardiopulmonary arrest cases during commercial air travel. American Heart Association Resuscitation Science Symposium 2009. Florida, Nov.

- 9) 武田 聡, 奥野憲司, 太田修司, 潮 真也, 行木太郎, 平沼浩一, 大槻穰治, 小川武希. 慈恵医大病院内における自動体外式除細動器の使用状況. 日本蘇生学会第28回大会. 佐賀, 11月.
- 10) 行木太郎, 又井一雄, 共田光裕, 大槻穰治, 平沼浩一, 武田 聡, 奥野憲司, 潮 真也, 小川武希. 当院の二次救急に対する取り組み, “その日だけの救急部”. 第37回日本救急医学会・学術集会. 盛岡, 10月.
- 11) 大槻穰治, 潮 真也, 行木太郎, 奥野憲司, 大橋一善, 大谷 圭, 武田 聡, 平沼浩一, 大瀧佑平, 小山 勉, 小川武希. 当院ER現状と問題点. 第37回日本救急医学会・学術集会. 盛岡, 10月.
- 12) 大谷 圭, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 三宅 亮, 大橋一善, 奥野憲司, 武田 聡, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 当院における過去1年間のCPA患者の背景と診断, およびその経過. 第37回日本救急医学会・学術集会. 盛岡, 10月.
- 13) 権田浩也, 武田 聡, 大瀧佑平, 亀岡佳彦, 潮 真也, 奥野憲司, 平沼浩一, 大槻穰治, 小川武希. プライマリケア教育の場としての慈恵医大ER型救急部. 第37回日本救急医学会・学術集会. 盛岡, 10月.
- 14) 潮 真也, 武田 聡, 奥野憲司, 平沼浩一, 金 紀鍾, 大瀧佑平, 亀岡佳彦, 権田浩也, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 経過観察入院患者と転送搬送患者からみた当院のER型診療の現状と問題点. 第37回日本救急医学会・学術集会. 盛岡, 10月.
- 15) 大槻穰治, 潮 真也, 小川武希, 佐藤 順 (日本大学), 葛西 猛 (亀田総合病院). 外傷性肝損傷における Resectional debridement. 第1回 Acute Care Surgery 研究会. 東京, 10月.
- 16) Okuno K, Ogawa T, Tokutomi T, Kawamata T, Sakamoto T, Shigemori M. The increased penalties for drinking and driving offences significantly decrease the traffic severe brain injury with drinking: a report from the Japan Neurotrauma Databank. Neurotrauma 2009. Santa Barbara, Sept.
- 17) 武田 聡, 大槻穰治, 潮 真也, 奥野憲治, 平沼浩一, 小川武希. プライマリケア教育の場としての大学病院救急部 (後期研修プログラム). 第32回プライマリ・ケア学会学術会議. 京都, 8月.
- 18) 行木太郎, 又井一雄, 根本昌実, 共田光裕, 大槻穰治, 平沼浩一, 武田 聡, 奥野憲司, 潮 真也, 小川武希. 我々の二次救急医療に対する取り組み—その日だけの救急部—. 第34回日本外科系連合学会学術集会. 東京, 6月.
- 19) 春木孝一郎, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 潮 真也, 奥野憲司, 武田 聡, 平沼浩一, 大槻穰治, 小川武希. 腹痛で発症した下脛十二指腸動脈小枝の動脈瘤破裂の1例. 第12回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 大阪, 6月.

20) 奥野憲司<sup>1)</sup>, 小川武希<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>頭部外傷データバンク検討委員会 (日本神経外傷学会, 日本交通科学協議会). 頭部外傷データバンクにおける飲酒頭部外傷患者の検討 (プロジェクト1998と2004の比較). 第32回日本神経外傷学会. 下関, 4月.

#### IV. 著 書

1) 武田 聡. 第13章: 胸痛. Votey SR, Davis MA 編, 軍神正隆, 澤智博監訳. 早わかり! 救急科診療マニュアル. 東京: 中山書店, 2010. p.175-206.

#### V. その他

- 1) 中村 弘, 大賀 優, 平川公義, 山浦 晶, 中村紀夫, 富田博樹, 片山谷一, 小川武希, 有賀 徹. 地域医療における頭部外傷後高次脳機能障害に対する支援システム構築の試み. (助三井住友海上福祉財団委託研究報告書 2009; 1-15.
- 2) 平沼高明, 山口齊昭, 小川武希, 前田 剛, 伊藤文夫, 藤村和夫, 塩崎 勤, 北澤龍也, 徳留省悟. 未破裂脳動脈瘤の存在が確認された患者がコイル閉塞術を受けたところ, 術中にコイルが瘤外に逸脱するなどして脳閉塞が生じ, 死亡した場合において, 担当医師に説明義務違反などがないとした原審の判断に違法があるとされた事例. 賠償科学 2009; 36: 64-82.
- 3) 小川武希, 永田 泉 (長崎大学). 私の手術論 頭部外傷治療の現在とこれから. 脳外速報 2009; 19(6): 612-20.

### 内 視 鏡 科

教 授: 田尻 久雄	消化器内視鏡診断・治療, 胆膵内視鏡診断と治療
准教授: 貝瀬 満	消化器内視鏡診断・治療, <i>H. pylori</i> ・消化管発癌の基礎的臨床的研究
准教授: 角谷 宏	胆膵内視鏡診断・治療, 門脈圧亢進症の診断・治療, 消化器内視鏡
准教授: 加藤 智弘	消化器内視鏡診断・治療, Peyer's patch, 特にM細胞を中心とした消化管免疫機構
講 師: 鈴木 武志	消化器内視鏡, 消化器癌・大腸腫瘍の診断及び治療, 赤外線内視鏡
講 師: 松田 浩二	消化器内視鏡診断・治療, 特に超音波内視鏡・内視鏡データベース・教育システム・洗浄消毒
講 師: 今津 博雄	胆・膵内視鏡, 超音波内視鏡, 門脈圧亢進症, 消化器病学
講 師: 池田 圭一	胆膵内視鏡の診断・治療, 超音波内視鏡, 低侵襲内視鏡手術(NOTES, 全層切除)の開発

### 教育・研究概要

#### I. 上部消化管および咽頭悪性疾患に関する研究

##### 1. 胃食道悪性腫瘍の内視鏡診断に関する研究

食道癌, 胃癌を早期に発見し正確な診断をすることは, 適切な治療を選択, 実行する上で重要である。従来の内視鏡診断に加え, 画像強調技術を用いたより精度の高い内視鏡診断を行い, またその意義を明らかにするために前向き試験を行ってきた。また, 近年, 患者にやさしい内視鏡として開発された極細径内視鏡を経鼻的に挿入する経鼻内視鏡が実地医家に普及してきた。その診断能について前向き試験とともに食道の運動能・知覚診断への応用に関する臨床試験を行っている。

1) 狭帯域フィルター内視鏡 (Narrow Band Imaging: NBI) システムを併用した拡大内視鏡観察 (NBI 拡大内視鏡): 90 倍の拡大観察に特殊な光源システムを併用したもので, 粘膜表層の微細模様や